

深刻な子供の貧困問題

◆ 見えにくい、子供の貧困 子供の貧困率は13.5% ひとり親家庭の貧困率は50.8% ～7人に1人の子供が貧困状態～

当たり前の生活を営めない「貧困状態」の子供たちがたくさんいますが、外見から判断が難しく見過ごされがちです。経済的な困窮だけでなく「人とのつながり」や「教育・体験の機会」などが奪われ、人生の選択肢を狭めています。貧困状態が続くと親から子へと貧困が連鎖します。

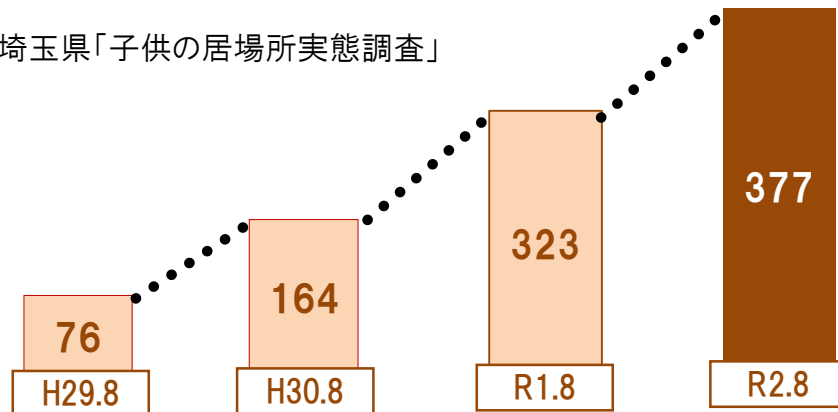
◆ 住民による「子ども食堂」などの「子供の居場所」は、直近1年で倍層 社会全体で子供を育てる拠点を増やす ～「小学校区に1つ」を目指して～

子ども食堂には、栄養状態の改善、孤食の解消だけでなく、地域の大人が子どもに関わることで「自己肯定感を育む」場となっており、まさに、社会全体で子供を育てる拠点です。

子ども食堂を、社会全体の力を結集して各小学校区に1つになるまで増やしていきたいと考えています。

県内の「子供の居場所」1年で倍増

埼玉県「子供の居場所実態調査」



こども食堂の多様な役割

- 栄養状態の改善・食育
- 孤食の解消
- 自己肯定感の向上
- 学力格差解消
- 大人への信頼を得る
- 様々な体験機会
- ロールモデルとの出会い
- 生活習慣を身に着ける
- 親の孤立の解消
- シニアの生きがいづくり
- 「気づき」の拠点
- 地域の交流拠点
- 地域コミュニティの再生拠点

子供が安心できる居場所を増やす

～子ども食堂応援プロジェクト～

基本方針

子ども食堂などの多様な居場所を増やして地域全体で子供を支える
～地域の力を結集したキーステーションを拡大～

目標

子供の居場所の数が800か所になるよう応援する
(=各小学校区に1つの割合)

377か所
(R2.8末時点)



目標

800か所

立上げを加速！
強力に後押し！

子ども食堂・無料塾、プレイパークなど



三芳おなかま子ども食堂 (H30)

事業内容

こどもの居場所づくりアドバイザー派遣

■支援内容

- ・立ち上げと運営の支援
- ・資金調達支援
- ・衛生管理指導
- ・域内のネットワークづくり
- ・人材確保・育成支援
- ・広報活動の支援
- ・空白地域でのセミナー実施

子ども食堂
運営者

食品衛生
専門職

広報・IT
専門家

様々な分野のアドバイザーを
地域に派遣

社会全体で取り組む機運醸成・情報発信

■ポータルサイトやSNSによる情報発信

- ・子どもの貧困の問題の解説
- ・子どもの居場所マップ
- ・子どもの居場所づくりノウハウ
- ・企業のCSR活動事例
- ・県や市町村の支援情報



こども応援ネットワーク埼玉

■こども応援ネットワーク埼玉事務局

個人や企業が会員となって、
社会貢献活動を促進する仕組